

第5期夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議 要旨

会議名	夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議(第8回)
日時	令和6年9月25日(水)18時30分～20時30分
出席	金子恵、中嶋弥生、大橋暉弘、小畑くるみ、神田恭司、千頭和正巳、樋口睦子、土方崇、秋山俊、平野静香、米原立将、景山千鶴子、小松佳世子、佐藤米子、山中ゆう子、安部希美、坂下香澄、飯野心咲(委員名簿記載順・敬称略) [事務局]矢ノロ子ども家庭部長、平川子育て推進課長、井田子育て推進係長、高野[株式会社地域計画連合]渡邊、青野
欠席	永田ゆかり、水城優子、北島宏晃、伊東祐也、大口泰朗、鉤賢太郎、末平乙綺、佐藤蓮太郎、松村咲(委員名簿記載順・敬称略)
配布資料	(1)プラン骨子案【資料1-1、1-2】 (2)はじめに(理念)【資料2】 (3)本市の子どもと子育て家庭の現状【資料3-1、3-2】 (4)こどもとおとなのはなしあい in 市議会議場実施状況【資料4】
会議場所	立川市役所 302 会議室

1. 第5次夢育て・たちかわ子ども21プラン策定について

1-1. 骨子案について(現プラン第3章の一部)

(1)事務局より、プランの基本理念や3つの基本的な視点、7つの施策目標について、前回までの推進会議の意見をもとに修正した内容と、第1期プランからの変遷について、資料1-1と1-2および追加資料に基づき説明。

(2)委員からの主な意見は以下のとおり。

【3つの基本的な視点】

・Q 視点その1には若者という言葉が入っているが、その後続く文章は「子どもたち」で、「子ども・若者」ではない。国のこども基本法との兼ね合いもあり、子どもの年齢の範囲は広がっているため、全体を通して年齢に限らず子ども・若者に対してのプランと示すのか、方向性を合わせて進められればと思う。全体を通す場合、「子どもや若者の声を聴き、当事者の気持ちを大切に、子どもの権利を尊重する視点」の後に続く文章にも若者と入れたほうが良いのではないかと。

・A 視点その1の後に続く文章の中で、「子どもたち」を「子どもや若者」に変える案もあったが、文章的に違和感があり「子どもたち」のままにした。ただ、視点その2の三段落目は、学校を卒業した若者への支援も重要な要素のため、「若者」の記載を残している。「子どもたち」を「子どもや若者」としても問題はないが、読んだときにすっきりしているかどうかの違い。

・すべての視点に「子ども・若者」を入れるとかえって対象がぶれる可能性もあるため、視点その1で若者も入っており、視点その2にも若者も対象であるメッセージを入れているため、現在の案のままで良いと思う。

・追加資料では、その2の二段落目に記載されていた「すべての大人が子どもとの関わりの中で…」の文章を残していない。だが、親以外の大人が、生物学的でも法律的でもない子どもに対する関わりの中で、子どもの感性を豊かにしていくことはあると思う。子どもとの関わりで大人が変化していくことは、結果的に親にならなくても、親育ちの一つであり、大人にとっていい変化と思うため、親でない大人についての記載もいい表現で残せないかと思う。

・親でない大人についての表現を残せるか、事務局と会長・副会長で調整する。

【7つの施策目標】

- ・「基本視点1」が、基本的な視点のその1ということであれば、表記は合わせた方がよい。また、視点その1、その2では、一行空いているが、その3は空いていないため、表記上そろえた方がよい。
- ・施策目標1では「子どもの権利を尊重します」としている。そして視点その3は、子どもが参加する権利を保障する、とも感じとれる。生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利を、施策目標の1の中で尊重するならば、視点その3が入ってもよいと思う。

1-2. はじめに(理念)について

(1) 事務局より、はじめに(理念)の変更点について、資料2に基づき説明。

(2) 委員からの主な意見は以下のとおり。

・Q あえて、文頭は一文字空けずに記載したのか。

・A 前回の第4次プランのみ文頭を一文字空けていて、第1次から3次までは一文字空けていなかった。今回は、本来の一文字空けない元の形に戻す。

1-3. 本市の子どもと子育て家庭の現状について(現プラン第2章)

(1) 事務局より、立川市の子どもと子育て家庭の状況について、資料3-1と3-2に基づき説明。

(2) 委員からの主な意見は以下のとおり。

【社会状況】

- ・(4) 世帯数と世帯人数の推移の説明には、核家族化が進んでいると表記されているが、単身世帯が増えているだけではないか。また、生涯未婚率のグラフは、国・東京都の数値と比較しても男性はほとんど変わらない。男性は高く女性は低くなっていると説明されているが、ポイントとしては大きい、小さいとは説明できない。「以前は違いがあったが、現在は違いがなくなっている」、または「女性も国と立川はほとんど変わらなくなっている」という表現の方がよい。さらに(10) 児童虐待では、立川市の数値は、新規虐待相談受理件数かと思うため、虐待相談をどれだけ受理したのか、非該当は除くかもしれないが確認いただきたい。(11) 子どもの経済的な状況の③は、「子どもの体験や所有等の有無」と表記したほうがよい。
- ・(7) 初婚率の推移、(8) 未婚率の推移のグラフについて、日本では大体結婚してから子どもが生まれるという暗黙の流れがあると思うが、この統計は子どもと子育ての家庭の状況と何か関係があるのか疑問に思う。
- ・市民意向調査の回答率は51.9%だった。市民意向調査で家計の状況を聞いているが、このような設問に答える方は、世帯収入が高い方が多い傾向ではないか。家計の状況を細分化して表示する必要があるのか。収入の状況①の対象が、収入がない(0円)～100万円から200万円未満を選択した方ということであれば、そこだけの割合を出せば良いのでは。
- ・家計状況で他に100万円単位の区切りなので、それぞれ10%前後だが、最後のみ900万円以上なため結果が3割になっている。そのため、900万円以上にあてはまる人が多い理由について補足説明を入れるなど、見せ方に関しては工夫したほうがよい。

【子どもの状況・子育て家庭の状況】

- ・(2) 母親の就労日数・時間、(3) 父親の就労日数・時間の結果は、週なのか。また時間は、1日あたりなのか明記したほうがよい。
- ・(2) 母親の就労日数・時間、(3) 父親の就労日数・時間について、前計画はパートかフルタイムか

結果が記載されていたが、今回はなくなっている。パートタイムかフルタイムかというのも、大事な軸と考えており、フルタイムで働けるのか、働けないのかは、子育ての状況も関わってくるため、家庭の就労の状況と子育ての関わり合いのところを分析するには、パートタイムかフルタイムかも記載した方が良い。また、(6) 家族の介護・お世話について、全体的にどのような読後感に持っていくのか。n数が少ないため、現在の見せ方が正しいのかわからない。パーセンテージでなく、このぐらいの時間お世話している人がいる、などのように文字で何時間と表した方が良い。

【第4次夢育て・たちかわ子ども21プランの取組状況】

- ・就学前の子どもの利用に関して、全体的に数が少なくなっているが、これは出生数が減っているためである。例えば、18ページの子育てひろばの利用者数のところで、平成30年度と令和5年度を比較すると、数字で言えば1万人、25%ぐらい減っているように見えるが、子どもの出生数もかなり減っているため、示し方が難しい。こんにちは赤ちゃん事業、妊婦健診などは率で表記されている。人数で示すのか率で示すのか、見せ方によってくる。また、16ページに「食育推進のため、公立保育園では」とあるが、立川市の指導検査では、民間保育園も必ず作らなければならないとなっている。所管課と相談して書きぶりを検討いただきたい。
- ・Q 令和6年度の目標値について、令和5年度の現状値が入っており、令和6年度の目標値が令和5年度の現状値よりも下回っているものがある。例えば、自分のことが好きだと思えると回答した子どもが、平成30年度は65.2%、令和5年度には73%まで上がったが、令和6年度の目標値は70%とされており、令和5年度の現状値より下回る。どのように解釈すれば良いのか。
- ・A 第4次プランを作る段階で目標として設定した値が、令和6年度目標値の欄に記載されていると解釈する。達成できているもの、できていないものという検証は、本来、第4次時点の目標数値と令和6年度の実数で比較すべきだが、令和6年度の実数が出るのが来年度なため、今は令和5年度の現状値で比較する。来年度の推進会議では、最終的な令和6年度の実数を示すことになる。
- ・「少人数指導員」という呼称はあまり聞いたことがない。低学年の少人数を行っているのは知っているが、何のことなのか。
- ・少人数指導員は東京都から配置されていて、小学校の場合は算数が多い。時数に限りがあるため、3年生以上を習熟度別にすることが多いが、さらに1～2年生などの習熟度別指導を希望する場合、市の予算から指導の時数が配分されていることを示す数値ではないか。
- ・東京都の習熟度別指導の施策では、中学校では数学科と英語科。平成30年度、令和5年度の5年間の差で時間数が減っているようだが、実際には2人配置すれば、このぐらいの時間差はすぐに表れる。その時々で配置が不要になれば、ゼロにもなるため、単純に少人数指導員の時間数が減ったという表現は違うと思う。

【事務局より追記】

- ・主な取組指標の「少人数指導員」とは、東京都方式の習熟度別指導（小学校算数・中学校算数）、少人数・習熟度別指導（中学校英語）で配置された指導員のこと。効果的な習熟度別指導や少人数・習熟度別指導を各学校で実施するために、必要な指導員を東京都が配置する。東京都による配置時間が充足してきたため、市で持ち出して配置する時間は減少した。

2. こどもとおとなのなしいin市議会議場 実施状況について

- (1) 事務局より、9月7日に開催した実施状況について、資料4に基づき説明。
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり。

・会長の進行、ファシリテーターなど皆さんの空気づくりが素晴らしかった。今回の提案は、全て高校生。特に3つ目の提案では、生徒の応援団のような形で商店街の方や学校の先生がいらしていたことが印象的だった。温かい応援団、周りの大人のまなざしみたいところが、会場の空気づくりになっていて素敵だった。また、今年の報告チームに、これから実現していく新規のチームがどんな感じでやっていたのか聞くなどコミュニケーションを取っていて、先輩後輩でもないそういう関係が子どもたちの中で作られていたのが良かった。

・高校生とは思えない企画の発表で、勉強になった。質疑応答がうまく答えられず、最後は悔いが残ってもっと答えられたのではないかという涙になっていて、これからすごく伸びる子たちだと感じた。今の子どもたちは未来のことを考えていて、大人も負けずに頑張っていかなければと感じる会議だった。

・年々積み重ねていくことで、どんどん素敵な会になっていると思う。今回は高校生だけだったが、今後小中学生卒などを考えていくと良い

・新規提案も報告も非常に興味深く、一生懸命やっている姿を見るだけでも、勉強になってよかった。特に今年の提案を、どういう風に活動できて実現したのかという報告のところが素晴らしかった。次回の新規提案は高校生だけでなく、小学生や中学生の意見を表明する場を作っただけだと、趣旨にあった会議になっていくと思う。

・作戦会議の時は、提案した企画の講師に誰を呼ぶかのアイデアがまとまっていなかった生徒達が、市議会会議場での当日には、具体的に有名な方を講師として呼びたいと提案していて、いろいろ調べて勉強して名前が挙がったのだらうと驚いた。通信制の高校生チームもいて、自分で学校を選び、自分の道を開いてその先に進んでいく子どもたちを見て、進路を心配している方たちに聞かせてあげたいと感じた。

3. その他

・チャイルドラインたちかわから、チャイルドライン支援センターの年次報告。

・たまがわ・みらいパークの報告。

・たましんRISURUホールの中学生の主張大会の審査員推薦書提出の報告。

・次回、推進会議 10月25日を予定。

以上